



■東京学園が目指す進路指導とは？

「成績を上げて、有名校に進学する」、それが進路指導の終着点ではないと思います。東京学園が生徒に求めているのは、「生きる力」すなわち、「目標に向けて努力を重ね、自分の人生を自ら選びとる力」を身につけることです。

そのために「エゴグラムを活用したグループ体験学習」を実施しています。ホームルームでさまざまなグループワークに取り組むことにより、今の生徒に不足しがちなコミュニケーション能力を高め、考える習慣を身につけ、共感性や想像力を育てるなど、多方面にわたって「人間

力」を伸ばしていきたいと考えています。

まずは自分を知ることが、最良の進路を選ぶ第一歩になるのではないのでしょうか。

私たちの学校の生徒は、自分がどのような個性を持っているのか、そしてどれだけ成長できたか、その成果を、年2回の「エゴグラム診断」によって目に見える形で確認します。そうやって自分の長所や課題を知り、より改善していく中で人間力が養われ、人生に役立つ進路指導ができるのだと思います。

■導入背景と年間カリキュラム

生徒一人ひとりの資質を伸ばして

ようになつたり、クラスでの提出物の期限を守る点についても今では当たり前のように守られるようになってきました。

生徒だけでなく教員も変わってきていると思います。それまで、様々なことに対する生徒からの「どうしてですか？」という問いになかなか答えることができなかったという面

もありましたが、コミュニケーション能力を指導する上で、教員自らが生徒に対してコミュニケーションを上手にとれるようになり、それによってこうした課題を解決できています。

■教員間の意識付けと保護者の反響



実際に教室で担当するのは教員です。教員間の温度差をなくすために、毎年、プログラムの教材を選ぶメンバーに新しい人（学年から代表で2名）を入れるようにしています。こうすることで、一部の教員だけが意識があり、あとは意識が低いといった温度差がなくなってきました。そして皆で情報を共有し、プログラムに対する意識付けをするようにしています。やはり熱心に取り組む先生ほど生

エゴグラム診断で自分を知る それが最良の進路を選ぶ第一歩

インタビュー 進路指導部長 高野淳一 先生

いく教材を模索していました。それまでは生徒たちへの指導は教員個人の力量にゆだねられていた面がありました。

しかしそれでは全体的な向上が難しくなったり、差が生じてしまうという状況がありました。こうした差をなくし、教員間で同じように活用できる教材を探していた時にKA教育の『3D教育プログラム』を知りました。私たちが目指す進路指導の方向性と重なる部分が多くあったため、「これはいい」と思い、導入に至りました。

現在は各学年ごとに年間カリキュラムを組んで取り組んでいます。

例えば今年の3年生の場合、4月に1回目の「エゴグラム診断」、「エゴグラム診断結果分析報告会」を行



徒側も内容への理解や集中が違ってくると思いますので、そういう意味でも教員の意識付けが重要だと思います。

現在、我が校では、KA教育・菊地淳氏による「保護者対象講演会」を行っています。保護者からの反響はいいです。高校生になると自我が出てきますので、保護者の方も今までと違い、家の中で子どもとどう接していいかわからないというケースもあります。そうした保護者の方からも子どもとの接し方のヒントになったという声もあり、学校だけでなく、家庭教育にも良い影響が出ているのではないかと考えています。

また、面談の際なども「エゴグラム診断」のシートを見ながら一緒に話をしていくことで、生徒をどう見るかという部分で教員の視点だけではないデータから見た説得力ある面談が可能になったこともプログラム導入のメリットになっています。

■最後に一言

移り変わりの早い現代社会だからこそ、進学後も社会に出てからも役に立つ能力を伸ばしたいと考えています。常に「その先」を見据えていきたいですね。

大学までの人生よりもその後の人生のほうが長いですから、その後の人生にも効果のある指導が必要だと

います。それから「卒業後の人生を展望する」「進学・就職のための自己アピール」、「マイクローデバイス」などを行い、11月頃に2回目の「エゴグラム診断」、「エゴグラム診断結果分析報告会」を行います。その後、「マイ・グロース」を行って自分の変化を知り、次のステップを考えるという流れで年間のカリキュラムを運営しています。

■プログラム導入後、生徒はどう変わったか？

プログラムに取り組む中で具体的な目標を持つ生徒が増えてきたというのが実感です。やはり、やる気を引き出すにも明確な目標を立てることが大事で、目標なくしてはやる気も起きません。それから目標を早め持つことも重要です。そうすることで、自身の進路の選択の幅が広がってくるからです。

あるAO入試に力を入れている大学があり、一昨年から、我が校の生徒の評価が特Aと高く評価されるようになりました。これは「グループコミュニケーション」のプログラムを通して、生徒一人ひとりが、人の話を理解し、自分の考えを相手に伝えるというコミュニケーション能力が養われてきた結果だと思っています。

また、家庭やクラスでも変化が見られます。今までは家で試験の話などしたがらなかった生徒が家で話すようになります。

思います。

その一助としてKA教育の『3D教育プログラム』を効果的に活用し、我が校が目指す「人間力を伸ばす」進路指導に今後も取り組んでいきたいと思っています。

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・ 生徒会に立候補する生徒がクラスで4人も出た
- ・ 教室を清掃する意識が向上した
- ・ 前向きに考える生徒が増えた